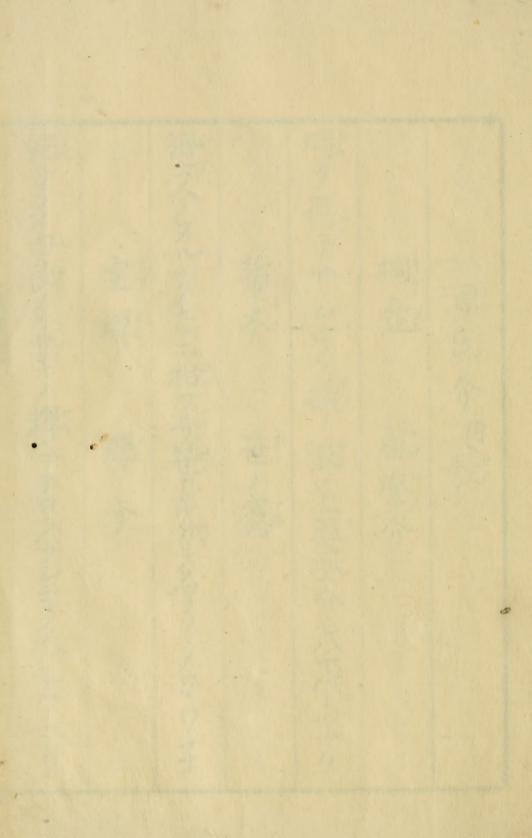
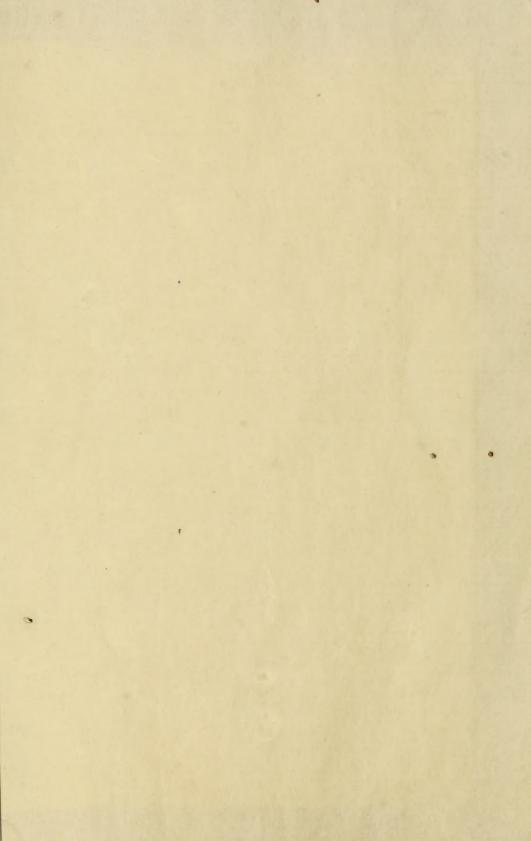
和漢具譜 附録 HNOS 1+1 A HIGH TO





時ヲ得テサンデ人張ノ設ノ上鳳凰介モ午作ヤナク 海士人ノヌルータモと二拾フか笹りも分テ名コソタかり子 妹か多由良くとサキノ輝かラログラション人にラへり 蒂木 桐黄 空沙蟬 源氏介門歌 笹ノ露 馬里今

思ヒアンが向フ鏡ノカイナクテンに次するまたいフロシ 神山り州ノ名ニタン海原ノ誰ニアライイダイカラン 風言い何ナラナクニ扇かマチカ子上に流磁ノシマ 常盤木ノ枝ノ濱ナルはあり、張ニハイクル名コリアリケリ 花,官女 笑? 扇命 葵介 鏡。

住吉し松や当り友ナラム洋ノ姫ニナアマタョルナリ 岩井嶋イホウカイアル王椿君が人代数モロハム 聞人を夜サムノ枕風アラク張邊子島カーマカリキ 花散里 廖察 項广 明石 王春介 千鳥分 姬 稿 期

アヤンクモネグランキ板屋かちつり海でかって れかマタ石マデニイタラ子ドイフカ王海ラハナレヤハセン 春トシナ震なウラワノ場動コキ行舟ノアマクラルナり 浦ん名ノカを、カリノ路ラマタアフマディキりたラン び 生 极產介

海生人ノラクル月日くカイアリテ浦販シャナニハ江ノサと 神人世ワえんれば枕友マフ風ノラトハカリンテ 時ラマクスアダル花ノ名ラカコラとかす朝顔ハナ 朝颜 夢 松河風 松風介 し女介 朝顏分 月日介

来テ見に夜年ノ高波声少きすりで演ノ郭公分 春風ラス治ノ胡蝶かつかインナ浪ノ間ニし ワタフミノラグカサンモケフグ見に瓔珞介ノエノカズ・ 海士小舟カデ取するデョセテレケノタカイブナカラと 王道 胡蝶 初二日 野路か 郭公介

いかくって天津沙風吹かってナキサノかノ数でロハム 海原ノ返間カキワケ拾アトテフテ大教身神ンナリフ 包ともなくくったりずノクホタルかりナ 野分 常复 篇 火 少生, 沙折命 沙吹命 螢分

同し野人家路二分と旅格アワレカケョカコトハカリモ 神遊とろなかニラトンでもウラカイン・モトルクルでか カック海士出ティキックタララでから沙吹名ヤヨフスラン 今が知い古キムカシノ直大柱宝かラヤマブロフラン 藤袴 御幸 真木柱 藤夸介 野介

フジカタニョル学をノうとかライクシホ浪ノソメカヘシケン 張菜なうりこうキテナニがっていたいとってカウサイ 海原ノ海ナノサイズり來一見いとろうきュブルラレ 着菜 岩学 梅节枝芒 藤夷葉 紫介 蕪 為 カイキか

落葉か、袖二包とテモテュウ秋ノ紅葉とでるラン 七心ラル、生テカイナシカナラスク言う世末夕三七カワス世ナレバ 稀ニアフタガフタり寝して海上り年る己島ノ羽子か 沙風ニーキもしテ後しと生ソフ海土ノるくろう 横沿笛 柏木 鈴虫 落葉介 羽命

里沿人不利行者分マタクと身海难 舟上に強く很られかりりくアル夢ニアワサラメヤハ 御佛とマニランフカイシアンはりりて、光リラグ見ル 御法 句言 幻流 タラ歌 神 行者介 震介 流八心海土人皆家了した小遊か人夜人秋 アンフスマタガ神介ノカタで上アカトりと海ノ浦メッラナル 海ニュティーマヤマラム白妙ノウンモレンテン浦ノ雪か 丁カタナル十色ノ海ノ製、二王ノアリカハイカランキセレ 紅梅 橋姫 小莲介 千色介 雪分 風

春風ニョセクル浪トモロトモニワラス確間ノ野地ノ早蔵 破ナレン里ノアケマキイサナイテトかマシリノ数ヲ拾ハン 栗川行名うれ後額朝三暮四台与ララモホエ 早节晚 寄木 角絲 推本 角総介 模頭介 早蕨介 濱椒介

演椒シアニラクルるよりよりとしてもくときノフチナル カテカタとせも真砂雨晴テタマり水云すブ秋ック イモトアンドン般テノマサケノ屋形かけて方王クワセテグ見ル 千早根神代人和歌,神浪三アワセティスル夷介タナ 東屋 浮中和 時沒 夷 時野か 屋形介

カルカマノ名コソ似タルカシトロかりかり、浦三立てシりで 海士ノチノサスかでさしくれか文字ノ関路ラフを見かけ 源氏五十四種終 夢浮橋 丰習 歌仙今所歌 シトロか

支水集 右二 浪りに吹上ノ海ノ海の風モグラロスイソキヒロハム 新後拾遺集 左二 夫木集 右一 春風三浪や折かとこくチノクノマガキか鳴り梅り花か 山家集左一 とア演議コス限ノきかリスレスモスルフッか子を 忘命 藻介 梅花介 花か 順德院 俊頼 西行

ムラサキノかヨル浦ノ藤カタへ没ノカラグ花上見つうり 支木集 左四 タッムルマスナノ小か治アナラ色ノ道上、スニヤアルラン 建保百首左三 枝ナカラサカマク浸ノ折子、ヤチリーコスルナ代人花か 支末集 右三 伊势人海浪人王記櫻介力了了几年人春人色力大 真穗介 紫介 定家

名寄 夫木集 左五 ナニワノガ浪間柏ラトルホト一百七暮袖三月グヤトレル ルレートンラ海ノ白かりまサラル雪カトソ見ル 子汐と無子かことう色ハヤマト唐ニモアランとの書 右五 右四 撫子介 浪問柏 定家

4

名所記 右七 色しくかアリテュン拾いてナクサノ海ノ海土ノ間ニし コキマセニ色ヲ盡テヨルかい錦ノ神上見ユルナりケり 契りラキンをがすり秋フとできて、現かりそもすりき 舟上へん残りととううかりてアルックランサランヤハ 右六 左七 色介 錦布 三條院御製 大江廣重

田をサワクなりモトな、ラカキケテ浦空かうたといわけ トモスレバ戀シャ方ノ名ニアの都介ラグマブ拾しヌル 山伏ノホラ吹きノクはるニソコトモケラスス、ノウワ風 右九 榮蝦 宝螺介 神空か 寂蓮

アヤシクモ油ノンフシキ板屋か皆フク海が習せラズヤ 新六帖 左十一 浪りえんがイナマリノ在からとき世をアーニケルカナ 資子自つてくラクアトノンモリナガイアに油ラがラマハ サクスム瀬かりえいボモトノ出テイソンキ海生をきたりナ 左十 右十 千鳥介 在分介 板屋介 信雪

ナ学世人総路ニイカデウンをとているろうか田にラ 我袖インカテカタカタをかアフテフューを浸しまして 音智花 左十二 アコマトレーかりカララ種ラキティエノアトラススルナリケリ 續後程集 左十三 空瀬介 石文明か カタンか後花園院御世を 阿古屋介 西行

伊勢海海かかからアファマリー袖タングカワカス 伊勢ノ浦ノジャニアサリモトろんカイランを写りたったって 後ろう三嶋浦ノ空瀬からももカラスヤナルラム とは人様でするうりりとうラートリンテヌハタ 右十四 左十四 四四、 期景介 身ナンか 高屋院入道三品親王 光俊

タモシナ物洗介ろキヌギ法人連ノウララスかり タとうといれずれんにつかっいメニュケテリラグラフムル 海道記 右十五 海原で浸って、かからイアル園ーナルカショサ 左十六 左十五 右十六 涛介 **冷津** 物洗介 津子久國 長明

千首 伊野ノ海キョキ清三駒トイナ都ノワトニルかヒロハン 視トルカタノ海ノ海土人ヨラウニスバカイグアルへキ 江ノジニミンか拾フラナイコか名とニダートフ人モナシ 今が知上見かりからセトン思フナリケリ た十七 左十八 左十七 - relat 現り介 源师光 爲尹

未集 夫木集 野かりきたりようい村松くキシウツ浪ノに、キナリケリ 君が、けろうとト見スル長濱ノ千種ノ介ノ数モッキセン コ美工作 歌仙三十六種終 右十八 左 新撰六歌仙府歌 りた 千種分 蟬 -

夫木集 山家集 支木集 浪ョスルン・ラノ海ノカラスか拾しヤスクモ思ホエルカナ 浪アラスを浦り袖かラ沙テ二風ノタ、ミラクカナ 同 おすスルシルケアリテラザー海ノを上浦ニコロモへヌベシ 右二 左三 左二 1910 こルか 鳥分 神 西行 同

夫木集 右三 水子ノエラジル残かく片戀とグトシハへニッ コグ人モナギサニョスル和かい吹りに風やフナグナルラム 際等介 新歌仙 松山忘今 一种 今月二年 石裁? 海河 人九

学り 写 神 オンジ 王学 西节 破 省" 秧 馬刀 11/11 行中 n n n 炮 結び 疵 寄 島 淡、 学 居为 5 王兴 イかに

王等深 分 續 歌仙 世交衣分 文学理》 秋节 かけ限金のまた り 季ルテンス 花 枕 些" 一名メリハジヤ 一名未れ

通 王ツ 經 n ヘアノチトリル 一名意思子 一名いべり 空 瓏 瑕" 分 分野礼 海 唐" 目, 車 衣言 等 分 朝息,俯二 衣介压

和漢貝語卷之十終、			汐電分差棒サ、レケ	演教 介 横笛介
			編;	玉沙 梅沙
			りライン長手の	介

